

# 技術・家庭（家庭分野）

東京書籍

教育図書

開隆堂

## 観点の内容

### 技術・家庭科（家庭分野） 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族・家庭、衣食住、消費や環境についての基礎的な理解に関わる資料の箇所数</li> <li>・ 調理や製作などの技能に関する内容を取り上げている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るために、調査や話し合い活動を取り入れ、生徒が主体的に考えられるよう留意する。</li> <li>・ 実践的・体験的な活動を重視した学習を通して、一定の手順や段階を追って身に付けるだけでなく、自分の経験や他の技能と関連付けながら主体的に活用できる知識・技能として習熟・定着させるよう留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭や地域で活用するための教材や学習活動が設定されている箇所数</li> <li>・ 問題解決的な学習の一連の学習過程を取り上げている箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「生活の課題と実践」において、家族・家庭生活や衣食住の生活、消費生活・環境で学習した内容との関連を図りながら課題を設定し、実践的な活動を家庭や地域で行うことができるよう留意する。</li> <li>・ 問題解決的な学習においては、解決方法を考えたり、計画を立てて評価・改善したりする際、考察した意見を他者と交換する活動を通して、多角的に検討できるよう留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児や高齢者などとの関わり、日本の生活文化の継承、豊かな生活の創造、将来の家庭生活や職業との関わりについて取り上げている箇所数</li> <li>・ 各教科等の内容や、道徳の内容、小学校での学習内容と関連をもたせた指導に関する内容が設定されている教材の数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身に付けた資質・能力を活用して、家族と協力し、地域の人々と協働しようとする態度、日本の生活文化を継承しようとする態度、生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度、将来の家庭生活や職業との関わりを見通して学習に取り組もうとするなどの実践的な態度を養うことができるよう留意する。</li> <li>・ 各教科や道徳等の指導内容との関連を図るとともに、小学校家庭科や高等学校家庭科における学習と系統立てて、生徒の生活とのつながりを重視し、家庭や地域における実践に結びつけることができるよう留意する。</li> </ul>

## 調査方法

### 種目名【 技術・家庭(家庭分野) 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭、衣食住、消費や環境についての基礎的な理解につながるグラフや表・図・写真・資料の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 幼児と中学生の体型の比較図、食品の成分グラフ、住まいにおける地震対策の図、繊維の拡大写真などの箇所</li> <li>・調理や製作などの技能に関する基礎的な内容（作業手順の流れ・用具の扱い方）を取り上げている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 食材の切り方、計量の仕方、スナップのつけ方、ミシンの取り扱い方などの箇所</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭や地域で活用するための教材や学習活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 調理例、作品例、発展、探究、実習、考えよう、調べよう、やってみよう、挑戦しよう などの箇所</li> <li>・問題解決的な学習の一連の学習過程を取り上げている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 問題解決学習の事例、話し合おう などの箇所</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児や高齢者など家族や地域の人々との関わり、日本の生活文化の継承、豊かな生活の創造、将来の家庭生活や職業との関わりについて取り上げている箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 幼児・高齢者とのふれあいや日本の伝統文化に関する資料、プロへのインタビューなどの箇所</li> <li>・各教科等の内容や、道徳の内容、小学校での学習内容と関連をもたせた指導に関する内容が設定されている教材の数について調査を行った。</li> <li>例) 他教科や道徳、小学校の学習と関連がある箇所</li> </ul>

調査結果

家庭

	観点A		観点B		観点C	
	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項  発行社	家族・家庭、衣食住、消費や環境 に関する基礎的な理解に関する 資料の箇所数	調理や製作などの技能に関する内 容を取り上げている箇所数	家庭や地域で活用するための教材 や学習活動が設定されている箇所 数	問題解決的な学習の一連の学習過 程を取り上げている箇所数	幼児や高齢者などとの関わり、日 本の生活文化の継承、豊かな生活 の創造、将来の家庭生活や職業と 関わりについて取り上げている 箇所数	各教科等の内容や、道徳の内容、 小学校での学習内容と関連をもた せている指導に関する内容が設定され ている教材の箇所数
東京書籍	○	○		○		
教育図書			○	○	○	
開隆堂	○		○			○

種目名 技術・家庭（家庭分野）	発行者名	東京書籍
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句の説明や関連する資料が豊富に掲載されており、理解しやすいようにまとめられている。</li> <li>・ 調理や製作などの基礎的な技能に関して、写真やイラストでまとめられた「いつも確かめよう」のページや二次元コードによる動画により、手順などを授業や家庭で確認することができる。</li> <li>・ 巻末に「言葉のページ」として、衣食住に関わる基礎的な語句がまとめられており、学習した内容を調べたり、振り返ったりしやすくなっている。</li> <li>・ 巻末の「防災・減災手帳」は、日常的に手元で確認できるように切り離して活用できる資料となっている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題解決的な学習として、消費生活のページだけでなく、食生活や衣生活でも「選択と購入に関する意思決定のプロセス」の欄が設けられており、学んだことを繰り返し活用できる工夫がされている。</li> <li>・ 「生活の課題と実践」では、物事を考えたり意見を整理したりする際に有効な思考ツールの例がまとめられている。また、思考ツールを活用した「主体的・対話的で深い学び」を通して、問題解決能力を高めることができるよう工夫されている。</li> <li>・ 「生活の課題と実践」では、まとめ方を生徒がイメージしやすいように、レポートや個人新聞などのモデルが具体的に示されている。</li> <li>・ 実習の際に生徒の創造性を引き出すことができるよう、「私のオリジナル」として工夫例が示されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業との関わりについて、「プロに聞く！」や二次元コードによるインタビュー動画があり、学習した内容と職業や自分の生き方とを関連付けて考えることができる。</li> <li>・ 「生活の課題と実践」では、幼児や高齢者など、家族や地域の人との具体的な関わりが想定されており、より実践的に考えることができる。</li> <li>・ 「リンク」「他教科」「小学校」マークにより、教科や学校種間のつながりが分かりやすくなっており、二次元コードで関連する他教科の教科書の内容を見ることができる。</li> <li>・ 脚注には、身近な生活に関わる物事について、興味をもって読むことができる「せいかつメモ」が掲載されている。</li> </ul>	

種目名 技術・家庭（家庭分野）	発行者名	教育図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容に関連する資料や図があり、端的で分かりやすくまとめられている。</li> <li>・6つの食品群の分類がサイコロの目で分かりやすく図示されており、調理実習と栄養・献立などの基礎的な内容と関連付けて考えることができる。</li> <li>・材料に適した加熱調理例が豊富に掲載されており、基本を押さえた内容としてまとめられている。新しい学習内容である「蒸す」調理方法について、食材に合わせた調理の例が充実している。</li> <li>・二次元コードによる動画コンテンツがあり、基礎的な技能に関する内容を確認することができる。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私のアレンジ」として、基本の作り方をもとに、生徒一人ひとりが工夫を加えられるような実習の工夫例が多数掲載されており、生活を工夫し創造する力を身に付けることができる。</li> <li>・章ごとの「学びを生かそう」では、手順に沿った問題解決的な学習が繰り返し取り上げられたり、課題設定のヒントが示されたりしており、生活を工夫し創造する力が身に付くよう配慮されている。</li> <li>・「生活の課題と実践」では、学習のプロセスに沿った具体例が示されており、生徒が自分なりの課題を見つけることができるように工夫されている。</li> <li>・「自立度チェック」や「話し合ってみよう」「やってみよう」など、実生活に結び付けて、生徒が主体的に学習しやすいような課題が多数設定されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統的な年中行事や、衣食住の生活に関わる多様な伝統文化を豊富に取り上げ、日本の伝統的な文化を継承しようとする態度を養うことができる。</li> <li>・各編の最後のページにある「センパイに聞こう」では、学んだことをこれからの人生や社会で生かすことができるアドバイスが掲載されている。</li> <li>・地域の人々との助け合いや協働についての内容を取り上げ、生徒が地域で活躍するイメージをもち、地域に合わせた取組ができるようにしている。</li> <li>・高齢者疑似体験や介助の活動例、幼児とのふれあい実習の様子などを掲載するとともに、実際に高齢者や幼児と触れ合う機会がもてない場合でも、学習できる方法が掲載されている。</li> </ul>	

種目名 技術・家庭（家庭分野）	発行者名	開隆堂
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習する内容が分かりやすいように、原寸大の写真が使用されている。</li> <li>・「参考」や「memo」、図など基礎的な理解につながる資料が豊富に掲載されている。</li> <li>・二次元コードによる動画コンテンツが豊富で、基礎的な技能に関する内容を授業や家庭で確認することができる。</li> <li>・安全・防災に関する内容や、知識・技能につながる発展的な内容が、巻末に資料としてまとめられている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のはじめに、主体的・対話的な学びにつながる導入の課題が設定されている。</li> <li>・学習のまとめりごとに記述式の「振り返り」「生活にいかそう」の課題が設定されており、自分の言葉で書くことにより、学んだことを実生活に即して考えることができる。</li> <li>・習得した知識・技能などを実生活で活用するための調理や製作の例が豊富に掲載されており、実践的な活動が家庭や地域で行えるよう工夫されている。</li> <li>・「生活の課題と実践」では、自ら課題を発見し、実践できるように課題を解決していく流れに沿って例示されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに持続可能な生活を目指し、学んだこととSDGsとの関わりについて話し合う構成になっており、これからの時代を見据えた社会に目を向けることができるようになっている。</li> <li>・小学校の学びを中学校の学習に生かせるよう、各項目の冒頭に「小学校での学び」を設け、具体的に何を学んだかが明記されている。</li> <li>・他教科や道徳との関連、家庭分野の他の学習内容との関係について、ページの右上などに関連マークが示され、学習内容を関連させるとともに、学んだことを生活に生かせるようにしている。</li> <li>・多種多様な職種で働いている人へのインタビューを「先輩からのエール」として取り上げ、生き方や進路を考えるヒントになるよう工夫されている。</li> </ul>	

# 英 語

東 京 書 籍

開 隆 堂

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

啓 林 館



## 観点の内容

### 外国語科 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「聞くこと」「読むこと」といった技能別（領域別）活動の箇所数</li> <li>・ 「話すこと〔やりとり〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」といった技能別（領域別）活動の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語材料のうち、五つの領域別目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える言語活動の箇所数</li> <li>・ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現する言語活動の箇所数</li> <li>・ 日常的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う言語活動の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えを形成し、これらを論理的に表現することができるよう留意する。</li> <li>・ 言語活動を行うに当たり、言語の使用場面や言語の働きを取り上げるよう留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的に取り組むことができるよう、段階的に設定された言語活動の箇所数</li> <li>・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような題材設定の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が興味を持って取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通して生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をするよう留意する。</li> <li>・ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるよう留意する。</li> </ul>

## 調査方法

### 種目名【 英語 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞くこと」「読むこと」といった技能別（領域別）活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例）ListenやQ and A等の技能別（領域別）活動の箇所</li> <li>・「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」といった技能別（領域別）活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例）SpeakやWrite等の技能別（領域別）活動の箇所</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える言語活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例）現在ヒットしている5本の映画についての情報を聞き取るなどの言語活動の箇所</li> <li>・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現する言語活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例）地球にやさしいエネルギー源について書かれた資料を読み、一番よいと思う発電方法を選び、理由も含めて発表するなどの言語活動の箇所</li> <li>・日常的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う言語活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例）夢の世界旅行について考え、自分の行きたい国とそこで何をしたいかを伝え合うなどの言語活動の箇所。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に取り組むことができるよう、段階的に設定された言語活動の箇所数について調査を行った。</li> <li>例）メールの書き方について、モデル文を理解した後、メールに使える表現を選び、それらを活用してメールを書く等の言語活動の箇所</li> <li>・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような題材設定の箇所数について調査を行った。</li> <li>例）アメリカでのホームステイ、世界に広がる日本食文化、世界で活躍する日本人、環境問題等が題材として設定されている箇所</li> </ul>

# 調査結果

## 英語

		観点A		観点B			観点C	
		知識及び技能		思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項 発行社		「聞くこと」 「読むこと」 「書くこと」と 活動の箇所数	「話すこと」 「やりとり」 「書くこと」 「読むこと」 活動の箇所数	日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える 言語活動の箇所数	日常的话题や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を活用し、語の考え、気持ちなどを表現する言語活動の箇所数	日常的话题や社会的な話題について、英語で話したり書いたりして、伝え合う言語活動の箇所数	主体的に取り組むことができるような段階的な言語活動の設定ができるよう	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者を配慮し受け入れられる精神を養得し、多面的思考ができるような題材が設定された箇所数
		東京書籍	1年生		○		○	
	2年生	○			○		○	
	3年生				○		○	○
開隆堂	1年生			○	○	○		
	2年生			○		○	○	
	3年生	○		○		○		
三省堂	1年生	○					○	○
	2年生	○	○				○	
	3年生	○		○			○	
教育出版	1年生	○		○				○
	2年生	○		○				○
	3年生	○		○	○			
光村図書	1年生	○	○	○				
	2年生		○	○	○			
	3年生		○	○		○		
啓林館	1年生		○			○		○
	2年生		○				○	○
	3年生		○			○		○

種目名 英語	発行者名	東京書籍
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校のスムーズな接続を図るため、リスニングによる概要把握や、音声による本文や新出文法の導入など、「聞くこと」の活動が充実している。また、映像を活用することで、「目的・場面・状況」への気づきを促す工夫もされている。</li> <li>・「読むこと」については、概要をつかむ・詳細をおさえる・表現につなげるという3段階読みの活動が設定されている。</li> <li>・新出文法の定着を図るため、本文の内容と関連させたPracticeが設定されており、その後、Practiceを参考にして、簡単な自己表現をすることができる「話すこと」「書くこと」の活動が設定されている。</li> <li>・1年生の前半では、Enjoy Communicationが設定されており、「話すこと [やり取り]」を通して、単元の導入をすることができる。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ユニットのはじめに、場面や状況を設定した「聞くこと」の活動があり、単元の導入がしやすい。</li> <li>・Speak &amp; Writeでは、学んだ表現を使いながら、ペアやグループで必要な情報やそれぞれの考えを伝え合うことができる。</li> <li>・Stage Activityでは、学習段階や生徒の興味に応じたテーマが設定されており、目的をもった自己表現活動ができる。「発表」や「やり取り」を通して他の生徒と交流した後、再度自分で考えをまとめる構成になっている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として多様な情報を扱っている。また、段階的に学習を進められる構成になっている。</li> <li>・単元を通して題材について自分自身の考えを深める展開となっており、多くのインプットや実生活に生かせるアウトプットの場面が設定されている。</li> <li>・コラム欄や自学自習（家庭学習）をすすめる手助けとなる二次元コードなど、多様なニーズに応える手立てが講じられている。</li> <li>・各単元で取り上げられている内容は、今日的な話題から歴史・伝統に関するものまで幅広く、興味をもって学習を進めることができる内容となっている。（例：環境・防災・AI・国際平和・ユニバーサルデザイン・エネルギー問題・偉人など）</li> </ul>	

種目名 英語	発行者名	開隆堂
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面・状況の把握や、新出表現の習得がしやすいよう、すべての単元がマンガ形式の導入になっており、小学校英語からのスムーズな接続を行うための工夫がされている。</li> <li>・Thinkでは、音声中心、読解中心、音読中心に3段階の読解ができる構成となっている。まとまりのある英文を速く読む活動ができる。</li> <li>・ScenesのSpeak&amp;Writeでは、自己表現を含む簡単な「話すこと [やり取り]」を行った後、「書くこと」につながる構成となっている。</li> <li>・各単元のStepsでは、既習の内容を用いて「話すこと」「書くこと」の技能を身に付ける活動が設定されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Readingでは、概要をつかむ・詳細を読みこむ・自己表現をするの3構成になっている。</li> <li>・Interactでは、親しみやすい話題や日常的な場面について、お互いの考えや意見を述べ合うことができる。</li> <li>・Retellでは、絵やキーワードが提示され、生徒はそれらを使って情報を整理しながら相手に伝えることができる。またOur Projectでは、学習段階に応じた場面が設定され、グループ活動を通して表現力を高めることができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Our Projectでは、マッピングの活用を紹介するなど、単元の学習をふまえて考えを深めたり、情報を整理したりできる構成になっている。また、教科書に書き込んで学習できるように、ページのレイアウトが工夫されている。</li> <li>・生徒が自分の学習状況を振り返り、主体的に学習に向かうことができるよう「できるようになったことリスト」が巻末につけられている。</li> <li>・学年の発達に応じて、文化、時事問題、社会問題を取り上げて学習意欲の向上を図り、国際社会への興味関心を高める工夫がされている。</li> <li>・各プログラムでは、学習した内容について「友達と考えよう」という活動が設定されおり、多面的思考ができるように工夫されている。</li> </ul>	

種目名 英語	発行者名	三省堂
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生前半では、小学校からのスムーズなつなぎとして、各レッスンが「聞くこと」の活動から始まっている。1年生後半は、「読むこと」の活動の後、「聞くこと」の活動、文法事項の学習という流れになっている。</li> <li>・USE、Readの「読むこと」の活動では、概要理解のために、Guideの補助問題に取り組みながら、繰り返し英文を読むことができるよう工夫されている。</li> <li>・Drillでは、ターゲット文を聞き、それをリピートする、キーワードを聞いて言うという流れになっている。その後、Talk、Speak、Writeといったコーナーで簡単なやり取りをし、それを書くという構成になっている。</li> <li>・日常に即した内容のスキットをペアで演じ、「話すこと [やり取り]」の練習ができるようになっている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Read for Informationでは、多くの英文の中から必要な情報を捉える、といった課題が課されているが、イラストや適切な課題設定によって、生徒が意欲的に取り組めるよう工夫がされている。</li> <li>・Take Action!では、付録のRole-Play Sheetを使って「やり取り」を行うことができるよう設定されている。自分たちがおかれている場面や目的、それぞれがもっている情報を整理しやすく、実際の場面に近いやり取りを行うことができる。</li> <li>・USEでは、目的や状況、場面設定を確認し整理しながら文章の構成を学び、自己表現に生かすことができる。さらにProjectでは生徒が興味をもって表現活動に臨めるテーマが設定されており、話し合いや発表の内容が深められるようになっている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5領域にかかわる言語活動が、段階的に学習を積み重ねていけるように構成されており、ペアやグループで取り組む課題が適切に設定されている。</li> <li>・アイデアマップやメモ欄、アイデアボックスなど、生徒が主体的に学習に取り組めるような手立てが数多く設定されている。</li> <li>・比較的身近なテーマでのアウトプット活動が段階をふまえて設定されており、学年が上がるにつれて、考えを深めることができる内容となっている。</li> <li>・題材として、日本のものと諸外国のものがバランスよく取り入れられており、国際理解、他者理解につながる題材が設定されている。</li> </ul>	

種目名 英語	発行者名	教育出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 学年を通して、レッスンすべての見開きに「聞くこと」の活動が設定されている。また、各ページに音読練習回数の記録欄があり、自学自習（家庭学習）を促す工夫がされている。</li> <li>・ 5 領域のコミュニケーションを効果的に行うコツが練習場面とともに示されており、知識・技能の段階的な習得ができるようになっている。</li> <li>・ パターンプラクティスを行うためのTool Kitが設定されている。</li> <li>・ Activities PlusではQ&amp;Aのドリルを通して「話すこと [やり取り]」の練習ができる。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元末のTaskでは、既習の文法事項を含んだリスニングを行い、場面に応じた内容理解をすることができる。</li> <li>・ Activities PlusのTopic for Speakingでは、Q&amp;Aのドリルを参考にしながら会話する活動を重ね、お互いの表現から学び合うことで、さらに即興的なやり取りの活動へとつなげることができる。</li> <li>・ Think &amp; Tryでは、やり取りや会話をもとに、自分で表現する活動を積み重ね、最終的にまとまった英文で表現する活動につなげられるよう設定されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Projectで扱う活動の目的が明確であり、取り上げられている内容も興味深いものとなっている。</li> <li>・ 各パートのGoalで明確な目標が示されているので、生徒が自ら目標に向かい学習する態度を養うことができる。</li> <li>・ 世界で活躍する様々な立場の人（偉人）が題材として取り上げられており、興味深く読みすすめることができる。</li> <li>・ 地理・歴史・理科など他教科と関連する題材が設定されており、多面的な思考ができるよう工夫されている。</li> </ul>	

種目名 英語	発行者名	光村図書
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の各パートが、本文で「聞くこと」「読むこと」の活動、言語活動で「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の活動が位置付けられており、4技能をバランスよく学習することができる。</li> <li>・「読むこと」の活動で、①音声と文字を一致させる、②内容について質問に答える、③音読をする、という学習の流れが示されており、生徒が自学自習（家庭学習）できる工夫がされている。</li> <li>・本文と関連した話題についてSpeakで簡単な自己表現を含む「やり取り」を行った後に、Writeでその内容を「書くこと」という構成となっており、「話すこと」「書くこと」に関する練習が多く設定されている。</li> <li>・巻末のLet's Talkでは、既習の内容を用いた会話の練習を行うための型が提示されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の最初のページでは、大意を聞き取ることから細かな部分の聞き取りまで、段階的に課題が設定されており、生徒の学習意欲の喚起を図ることができるようにしている。</li> <li>・You Can Do It!では、目的に応じて伝える内容や表現を共同で考えるThinkingの活動があり、思考力・判断力・表現力を養うように工夫されている。</li> <li>・帯教材のStorytellingを活用して、生徒は自分の言葉で表現する活動を積み重ね、即興的に話す力を高めることができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の流れに沿って段階的に自己表現する活動が準備されており、活動の振り返りができる工夫がされている。</li> <li>・Let's Coachや英語の学び方ガイド（1年生～3年生）に英語の学び方の基本がわかりやすく示されており、生徒が主体的に学習に取り組める手立てが多く取り入れられている。</li> <li>・各学年に複数回設定されているWorld Tourというページでは、他国の文化や世界の様々な状況を紹介するなど、生徒の興味・関心をひく工夫がされている。</li> <li>・You Can Do It!のページでは様々な国の文化や人々の生活を扱い、国際的な視野を広げる内容となっている。また、グループの中で互いに発信しあう自己表現活動が設定されている。</li> </ul>	



種目名 英語	発行者名	啓林館
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の各パートが、Get Readyは「読むこと」「聞くこと」、Practiceは「話すこと」、Useは「話すこと」「書くこと」という流れで構成されており、ステップを踏みながら定着を図ることができる流れになっている。</li> <li>・各単元の「読むこと」(Read and Think)では、概要把握→細部把握→発信活動の流れに沿って構成されている。</li> <li>・Practiceでパターンプラクティス、Use①で簡単な自己表現を含むやり取り、Use②でそれを書くという構成がされており、「話すこと」「書くこと」に関する練習が多く設定されている。</li> <li>・既習の内容を用いたスキットを読み、「話すこと [やり取り]」に発展させる活動が単元ごとに設定されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末のLet's Talkでは、生徒にとって身近な英語を聞く活動から始め、段階的に自己表現活動へつなげることができるよう構成されている。</li> <li>・Express Yourselfでは、各単元で扱われている話題について、学習したことをもとに、ペアやグループで自分の考えや体験を伝えたり、質問したりすることができる。</li> <li>・Projectでは、モデル文を読んだり聞いたりしたうえで、自分のことについて英文にまとめ、他の生徒と交流できるよう、学習段階に応じた場面設定がされている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元末のExpress Yourselfでは、3ステップを設定し、無理なくスピーチ活動に取り組めるよう構成されている。</li> <li>・Projectでは、具体的な例文とともによく使われる表現が示されており、主体的に言語活動に取り組むことができる。</li> <li>・各単元には、学習するテーマや内容について詳しく知ることができるMore Information が設定されている。</li> <li>・日本を代表するアニメやだまし絵など、親しみやすい題材が設定されている。</li> </ul>	

# 道 徳

東 京 書 籍

教 育 出 版

光 村 図 書

日 本 文 教 出 版

学 研 教 育 み ら い

廣 濟 堂 あ か つ き

日 本 教 科 書

## 観点の内容

### 道徳科 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳的価値の理解に関わる学習活動が設定された箇所数</li> <li>現代的な課題に関する内容等を取扱った箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同様に人間理解や他者理解を深めていくよう留意する。</li> <li>生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、生徒が問題意識をもって学ぶことができるように留意する。</li> </ul>
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>物事を多面的・多角的に考えるための教材や学習活動の箇所数</li> <li>多様な考え方を生かすための言語活動を設定した箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物事を一面的に捉えるのではなく、生徒自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができよう留意する。</li> <li>生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実させることに留意する。</li> </ul>
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする学習活動が設定された箇所数</li> <li>各教科等と関連をもたせた指導、日常生活における実践との関連に関する内容の箇所数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう留意する。</li> <li>各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができる。その際、各教科等と道徳科それぞれの特徴が生かされた関連となるよう留意する。</li> </ul>

## 調査方法

### 種目名【 道徳 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み物教材以外の、道徳的価値の理解を深めるための学習活動ができる教材の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) コラム、先人の名言などを取り上げている箇所</li> <li>・生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応(情報モラル)等の現代的な課題等に関する内容等を取り扱った箇所数について調査を行った。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事を多面的・多角的に考えるための学習活動に資する教材の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 友達のいいところ見つけ等、多様な考え方が生まれる活動の設定箇所</li> <li>・多様な考え方を生かすための言語活動について、書き込み部分の数や話し合い活動を具体的に設定した箇所数について調査を行った。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>C</b></p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする学習活動が設定されている教材の箇所数について調査を行った。</li> <li>例) 自己の生活を見つめる書き込み欄や学期ごとの振り返り等の箇所</li> <li>・道徳科と各教科等との関連をもたせた指導、日常生活における実践につながるような設定がなされている教材の数について調査を行った。</li> <li>例) 他教科等の学習内容との関連付けが図られている箇所</li> </ul>

調査結果

道徳

		観点A		観点B		観点C	
		知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項	発行者	道徳的価値の理解に関わる学習活動が設定された箇所数	現代的な課題に関する内容等を取扱った箇所数	物事を多面的・多角的に考えるための教材や学習活動の箇所数	多様な考え方を生かすための言語活動を設定した箇所数	自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つめたりする学習活動が設定された箇所数	各教科等と関連をもたせた指導に、日常生活における実践との関連に関する内容の箇所数
		東京書籍	1年生		○		
2年生			○			○	○
3年生			○		○		○
教育出版	1年生		○		○		○
	2年生				○	○	○
	3年生		○		○	○	
光村図書	1年生		○	○			○
	2年生			○	○		○
	3年生			○		○	○
日本文教出版	1年生	○		○			○
	2年生	○	○	○			
	3年生	○	○	○			
学研教育みらい	1年生	○	○		○		
	2年生	○			○	○	
	3年生	○			○	○	
廣済堂あかつき	1年生	○		○		○	
	2年生	○			○	○	
	3年生	○		○		○	
日本教科書	1年生		○		○	○	
	2年生		○	○		○	
	3年生		○	○	○		

種目名 道徳	発行者名	東京書籍
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命尊重といじめ問題をそれぞれ3つの教材を通してユニット化し、重点的に取り扱っている。また、いじめ問題に関しては、直接的・間接的な教材、実際の事例を漫画で表した教材などが取り上げられている。</li> <li>・SDGsの観点で、人権・平和、環境・資源、防災・安全などの現代の課題を扱った教材が多く、生徒が人間としての生き方を深く考えられるように工夫されている。</li> <li>・スポーツや伝統文化、情報モラルなどの現代的な課題などについても、バランスよく配置されている。特に、情報モラルでは、SNSなど生徒が問題意識をもって取り組める身近な内容になっている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に、切り取って使える心情円とホワイトボード用紙が付いている。思考の可視化を図り、「話合いの手引き」を参考に話合い活動を活性化させるためのツールとして利用することができる。</li> <li>・各教材の「つぶやきコーナー」や教材の中に組み込まれた書き込み欄に、自分の思いを整理することで、話合いにつなげることができる。また、「Action」では、役割演技をするなど生徒の多様な意見を引き出す言語活動が充実している。</li> <li>・生命尊重といじめ問題のユニット教材の後に、自分の考えを深めるための書き込み欄が充実している。それをもとに、考えを広げる話合い活動が設定されている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に「自分の学びをふり返ろう」のページが設けられており、学期ごとの振り返りができるようになっている。生徒自らが振り返って成長を実感できることや、教師が記述内容から成長を見取ることができる。</li> <li>・デジタルコンテンツとして、二次元コードが掲載されており、関連動画や他教科の教科書紙面などを資料として活用することができる。各教科等と関連をもたせた指導がしやすいよう工夫されている。</li> <li>・終末発問に「自分を見つめよう」があり、学習したことを実生活にどのようにつなげていくか考えることができる。</li> </ul>	

種目名 道徳	発行者名	教育出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命尊重といじめ問題を扱った教材がユニット化している。ユニット以外にも、生命尊重といじめ問題を深く考える教材があり、3年間を通して繰り返しスパイラルに学習を積み上げていけるように工夫されている。</li> <li>・読むことだけに頼らない、新聞記事や漫画、絵本、写真、歌詞など様々な形式の教材が配置されており、内容が把握しやすくなっている。</li> <li>・生命倫理、情報モラル、社会参画・協働、安全・防災などの現代的な課題を考えていく教材がバランスよく配置されている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心を揺さぶるような読み物教材や、新聞記事・漫画・絵本・写真・歌詞などの多様な形式の教材が多く、生徒の興味・関心を引き出し、「考えたい」「語り合いたい」という意欲を喚起できるよう配慮されている。</li> <li>・各学年とも、教材ごとの「学びの道しるべ」で、何をどのように考え・話し合うのか、学習の流れが分かりやすく示されている。また「やってみよう」では、直前の教材に関連して、役割演技で追体験ができる配置になっている。</li> <li>・生命尊重といじめ問題について、直接的または間接的に支える複数の教材がユニット構成されており、多面的・多角的に考えることができる。そして、コラムを手掛かりとして話し合い活動につなげることができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に「道徳の学びを振り返ろう」のページが設けられており、毎時間、毎学期に振り返りや1年間のまとめができるようになっている。生徒自らが成長を実感できることや、教師が記述内容から成長を見取ることができる。</li> <li>・「学びの道しるべ」では、学習したことを実生活にどのようにつなげていくのかを考えることができるような発問が設定されている教材が多くある。</li> <li>・巻末の「これからを生きる皆さんへ」では、1年間の道徳の学習をふまえ、これからの生き方を考えるような設定がされている。また、振り返りを書く欄に家の人から言葉をもらう箇所があり、家庭との連携を図れるようになっている。</li> </ul>	

種目名 道徳	発行者名	光村図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を3つのシーズンに区切り、それぞれにテーマを設定している。そのテーマに沿って、様々な角度から結びつけられるよう、関連性の高い内容項目を扱った教材が配置されている。</li> <li>・道徳科の授業開きを、最初の授業に設定し、生徒がこれからの学びを見通し、目的意識をもって授業に向かえるよう工夫されている。</li> <li>・現代的な課題をバランスよく取り上げており、特に環境、国際理解、共生については、教材の後に「広げよう」でコラムを配置し、現代的な課題の理解を助ける工夫がされている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で学習した教材を用いて、以前の自分の感じ方と比べることで、新たな気づきにつなげることができる。また、いじめ問題のユニットでは、様々な側面から捉えた教材が配置されており、生徒がいじめ問題に向き合えるように工夫されている。</li> <li>・漫画、データ資料、写真などで多様な考え方を導き出したり、「見方を変えて」で、基本的な発問とは視点を変えた発問を示したりすることで、多面的・多角的な捉え方を促している。</li> <li>・「見方を変えて」や「深めたいむ」では、役割演技や話合いの発問が具体的に示されており、問題解決的な学習や体験的な学習に取り組むことができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に「学びの記録」としてポートフォリオ形式の振り返りシートが設けられており、毎時間の振り返り、毎学期や1年間のまとめができるようになっている。生徒自らが、成長を実感できることや、教師が記述内容から成長を見取ることができる。</li> <li>・「つなげよう」では、関連する教科等や日常生活の実践につながる具体的な発問があり、学習の効果を高めるための工夫がされている。</li> <li>・「広げよう」では、実生活で考えられる課題を提示することで、教材とあわせて実践につなげる取組ができ、学びをさらに深められるよう工夫されている。</li> </ul>	



種目名 道徳	発行者名	日本文教出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめ問題と社会参画についてユニットが組まれており、特にいじめ問題については、認知件数のデータを基にして、1年生では年間3ユニット、2～3年生では年間2ユニットが、実施時期を考えて配置されている。</li> <li>・ 「プラットフォーム」では、人とのつながりや情報の扱い方などの、現代的な課題を取り上げるコラムが充実している。</li> <li>・ 「私の生き方」では、著名人から中学生に向けたメッセージとして、生き方のヒントや応援の言葉が掲載されており、道徳的価値の理解を深めるための学習活動に活用することができる。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめ問題や社会参画に関して、様々な切り口から考える直接的・間接的な教材をユニット構成にし、多様な捉え方ができるように集中的に配置されている。また、ソーシャルスキルを身につける活動も設定されている。</li> <li>・ 別冊の道徳ノートがあり、書き込み欄が充実している。どの学年も、1教材につき1ページで設定されており、自分の意見や友達の意見、話合いのメモなどが記入でき、色々な感じ方を書き残すことができる。</li> <li>・ 「学習の進め方」では、多面的・多角的にとらえる視点が提示され、議論や役割演技などの体験的な学習の具体例や写真も示されており、授業の中で効果的に活用することができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 別冊の道徳ノートで、毎時間の学習の記録や振り返りができ、巻末の「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」のページでは、毎学期の振り返りもできるようになっている。また、家の人から言葉をもらう箇所があり、家庭との連携を図れるようになっている。</li> <li>・ 「プラットフォーム」では、他教科や実生活と道徳科での学習を結び付けるようになっている。新たな考えや視野を広げることで、学びをさらに深め、実践につながるように工夫されている。</li> <li>・ 「自分にプラス1」では、自分事として、これからの自分にどう生かすかを考え、実践につながる発問が設定されている。</li> </ul>	

種目名 道徳	発行者名	学研教育みらい
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「クローズアップ」や「クローズアップ+」では、教材に関連したコラムが充実しており、道徳的価値の理解を深め、生徒が生き方についての考えを深めるための選択肢を増やせるような工夫がされている。</li> <li>・SDGsとキャリア教育の2つのユニットを3年間継続して配置している。特にSDGsでは、環境・貧困・人権・平和などの現代的な問題について、視点や内容項目の異なる複数の教材を設定するユニット構成となっている。</li> <li>・学習指導要領の内容項目「生命の尊さ」の教材を、各学年で3つずつ配置している。また他の内容項目でも、命の大切さを考える教材を複数配置し、重点的に扱っている。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「深めよう」では、「見つけよう」「考えよう」「話し合おう」「生き方につなげよう」と考えを深めるための道筋が具体的な発問とともに記されており、生徒が考えを深めやすくなっている。</li> <li>・各教材に、心の揺れに応じて思いや気づきを記入できる、メモ欄が配置されている。</li> <li>・「クローズアップ」や「クローズアップ+」で、「考えたい」「語り合いたい」という意欲を喚起し、多面的・多角的に意見を交流するような言語活動につなげることができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「深めよう」の4つ目のステップ「生き方につなげよう」では、自分を振り返ったり、自分なりの答えを見つけられたりするような、自分事として考えられる具体的な発問が設定されている。</li> <li>・すべての学年に設定された「あなたへ質問」では、具体的なデータ資料を基に、生徒が自らを振り返り、成長を実感したり、課題や目標を見つけたりする活動が設定されている。</li> <li>・学期ごとの「学びの記録」では、学びを振り返って記入することができる。また、巻頭の「マイプロフィール」と巻末の「心の四季」で、1年間の学びを通した自らの心の成長に気づくことができる工夫がある。</li> </ul>	

種目名 道徳	発行者名	廣済堂あかつき
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての学年で学期ごとに「thinking」というコラムを配置していたり、全ての教材の最後に名言が記されていたりするなど、道徳的価値の理解を深めるために、教材と合わせた活用をすることができる。</li> <li>・いじめ、情報モラル、SDGsについては、全学年で教科書の巻末で特設ページが設定されている。特に、いじめに関するページでは、様々な道徳的価値との関わりで考えられるように教材名や内容が示されている。</li> <li>・別冊の「中学生の道徳ノート」では、22の内容項目に合わせた読み物コラムが掲載されているため、補助教材として利用することで、道徳的価値の理解を深めることができる。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動教材や実話をもとにした人物教材、直筆の文など、生徒の心を揺さぶるような読み物教材が多く、「考えたい」「語り合いたい」という意欲を喚起できるよう工夫されている。</li> <li>・全ての教材で多様な「学習の手がかり」をもとに「考える・話し合う」学びの道筋が記載されている。そしてさらに「考えを広げる・深める」というコーナーを設けて、多面的・多角的な考えを促す工夫が見られる。</li> <li>・別冊「中学生の道徳ノート」には、内容項目にあわせたコラムやグラフ、アンケート結果などの資料が豊富で、それらをもとに深められた思いを自由に書き込むことができる。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別冊「中学生の道徳ノート」では、毎時間自分を振り返り、記入することで心の整理ができ、学びの足跡を残すことができる。そしてそれを基にすることで、学期末の振り返りを行いやすくなる。</li> <li>・別冊「中学生の道徳ノート」の「心のしおり」にある道徳科で考える8つの視点に沿って記述を促すことで、生徒が自分を振り返りやすくなり、これからの課題や目標を見つけやすくなる。</li> <li>・「考えを広げる・深める」では、自分自身の課題や目標、今後の生き方について具体的に考えや行動を促す発問が設定されている。</li> </ul>	

種目名 道徳	発行者名	日本教科書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命尊重、いじめ問題を合わせて考えており、3年間を通していじめを許さない心の根底となる、生命を尊ぶ態度を育むよう、教材の配置が工夫されている。</li> <li>・伝統文化遺産の継承と異文化理解について、各学年2つから3つの教材を配置し、地域に尽くしてきた人たちへの感謝の気持ちや、郷土に対する誇りを育むよう工夫されている。</li> <li>・生命尊重、いじめ問題、伝統と文化など、現代的な課題や問題をバランスよく配置している。</li> </ul>	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LGBTや障がいのある人など、様々な人とのコミュニケーションを通して、多面的・多角的な考え方ができるような教材が掲載されている。</li> <li>・身近な事例をもとに、家族、友人、学校、社会といった様々な視点から考えを深めたり、絵や写真をもとに、答えが一つではない課題を考えたり議論したりする教材が設定されている。</li> <li>・「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」には、生徒の思考を揺さぶる発問が掲載されており、授業の中で自然と議論が巻き起こるような仕掛けになっている。</li> </ul>	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考え、話し合ってみよう そして深めよう」には、自分自身の課題や目標、今後の生き方について具体的に考えや行動を促す発問が設定されている。</li> <li>・全ての学年の巻末に、1年間の道徳の授業を振り返ったり、自分の心の成長を見つめ直したりして、記入するページがある。</li> <li>・「考えてみよう」「話してみよう」「書いてみよう」などのページがあり、教材についてさらに考えを深め、自分の意見を整理して書き込むことで、自分を振り返ることができる。</li> </ul>	